

## 演劇という協同作業

「無責任」「顧問の仕事をしてるのか」とのお叱りを頂戴するのを承知の上で、今回の作品『再生リスト』は、脚本(ストーリー)から演技・演出、スタッフワークに至るまで、穴水を中心にすべて部員たちがゼロから考え、話し合い、創り上げたオリジナル作品です。本当に顧問の手は入っていません。

有料公演ということで、ただならぬ重圧がのしかかったであろう前掲穴水の文章には、やや言い訳と謝罪の言葉が目立ちます。ただそれは何事にも【不寛容な社会(批判したがる社会)】であるからこそ必然なのかも知れません。生徒たちは「受け身」で「消極的」と言われがちですが、本当はいろんな“夢”や“やりたいこと”をもっている。とはいえ、失敗を恐れず、堂々と、胸を張って何かにトライすることに、なんとなく躊躇してしまう。「挑戦しろ」と言っておきながら、実はその芽を潰しているのは我々大人なのかも知れない——。顧問の手を離れた、高校生独自の視点から描かれた『再生リスト』は、言い訳・謝罪文など必要ない、立派な作品に仕上がっていました。この場を書くのは不適切ではありますが、今日までの部員の努力に心から拍手を贈ります。

欧米先進国では義務教育の課程において必ず「演劇」の授業があります(週に4~5時間)。当然それは「演劇」の技術を身に付けることが目的なのではありません。「演劇」をとおして、物語のテーマとなる社会的背景を考えさせる(疑似体験させる)こと、そして協同作業の経験をさせることがその目的です。すなわち、「演劇」こそ究極の創造的学習活動(アクティブ・ラーニング)なのです。日本でも授業に「演劇」が取り入れられる日が来るでしょうか。少なくとも「演劇」を経験している全道トップクラスの伊達緑丘高校演劇部員たちは、間違いなく将来「仕事のできる」人材となるでしょう。

さいごに、この舞台は【メタ・シアター】という手法をとっています。もちろん設定はフィクションであり嘘(非現実)なのですが、演者たちはまるで現実の自分自身であるかのように、声を張らない自然なトーンで演じていきます。ひと味ちがった、この独特な世界観もぜひお楽しみください。本日はご来場ありがとうございました。

(東日本大震災から6年の日に 顧問 寺沢英幸)



## 再生リスト

2017年3月11日(土)

だて歴史の杜カルチャーセンター

Midorigaoka Theater



## CAST

田丸葵里 役 … 穴水 葵 (2年)  
神崎佑季 役 … 田中 佑奈 (2年)  
斉藤夏美 役 … 小島 夏希 (2年)  
杉田広信 役 … 立野 広樹 (2年)  
松野絢子 役 … 平口 絢菜 (1年)  
岡村慧太 役 … 高橋 慧后 (1年)

## STAFF

脚本・演出 … 穴水 葵 (2年)  
照明・音響 … 管野 響 (2年)  
サポーター … 若狭 舞奈 (2年)  
協力・取材 … 伊達緑丘高校放送局  
顧問 … 寺沢 英幸・永田 哲之

北海道伊達緑丘高等学校演劇部 (〒059-0273 伊達市南稀府町 180 番地 4 TEL/FAX0142-24-3021)  
《学校ホームページ》<http://www.datemidorigaoka.hokkaidoc.ed.jp>「伊達緑丘」で検索！

書くネタも考えないまま台本を書きたいと言って部員をふり回して今日に至りました。コメディなどやったこともない。まして、台本すら書いたことのない私。イメージが立っても書けない！それでもやってくれた部員に感謝しています。

今回は、そんな素人が少し日常をはずれたモノを手にして、人との思いについて考えるという、ありきたりのような、よくわからない急展開劇！意図が伝わらない。いまいち意味不明。色々あると思います！すみません！

とにかく雰囲気だけ伝わたらな…。とっております！

私は人と話したりするのが苦手でした。でも、人は一人で生きていないというのはとっても当たっていることだと思います。家族を抜きにしても一人じゃないんです。どんなに嫌な言葉を聞いても、それは自分では見えない自分のカケラなんです。それをどれだけ受け止めて自分のモノにするかで人は変わるんだと思います。私の想いをまとめられないまま台本にはしましたが、部員全員でかなりの時間のなかで頑張りました。それだけでも受け取ってください！

人の言葉は心の中に刻まれます。そして、深ければ深いほどいつでも頭で再生されるんです。あなたの中にはどんな音が残っていますか…？

最後のカーテンコールも何かある…!? 再生リストどうぞお楽しみに!!

(作・演出 穴水 葵)

こんにちは！伊達緑丘高校演劇部です。

今回の台本は生徒創作となっております。現部員が台本を作りながら演じるということが初めての経験だったということもあり、部員全員いつにも増して緊張していますが、観に行ってもよかったですと言ってもらえるよう全力で演じます！

現在、緑丘高校演劇部は部員7名、うちスタッフ1名という若干危機的な状態です。もし今日の劇を観て興味をもってくださった小・中学生の方がいましたら、将来是非演劇部に入ってみてください！楽しいですよ!!

さて、今回の台本は少し不思議な世界観のものとなっています。さらに部員のキャラが濃く出てしまっています…。

そんな～再生リスト～ですが、楽しんでいただけたらうれしいです。

(部長 田中佑奈)